



3000組のガイド活動を行った岡村真門さん

法隆寺を主体に、斑鳩の里を案内 3000組達成

「リピーターを増やすことが町のために」

来年度で発足して20年を迎える「斑鳩の里 観光ボランティアの会」の2期生として活動してきた岡村真門さん(78)は、1月10日で3000組のガイド案内に達した。会によると他の多い人でも1000組程度だという金字塔。「ガイド活動は、自分の健康のためと、嫁さんに自由な時間を作る家族円満の秘訣の一つ」と満面の笑みを浮かべる岡村さんに、ボランティアガイドの仕事や現状などを聞いた。

―ガイドを始めたきっかけは。

斑鳩の里 観光ボランティアの会は平成14(2002)年に発足して第一期生を募集しました。私はその翌年からの第二期生になります。当時は60歳で定年を迎えたところでした。住んでいるのが河合町ということもあり、斑鳩町のことをよく知っ

ていたわけでもなかったのですが、法隆寺なら案内できると応募したことが始まりです。

―ガイドする人というのは会で担当者が割り振られるものなんですか。

予約されたものもありますが、私は声掛けをメインに行っています。法隆寺iセンターのすぐ近くにバス停がありますし、またJRから法隆寺へ歩いている方などに「案内しますよ」と声を掛けるようにしています。あと、長年やってますと私に直接連絡してくださるリピーターの方もいらっしゃいます。

―ガイドの方はどのくらい在籍していますか。

平成25、26年のピーク時は130人いましたが、次第に減り現在は80人ほどになりました。また、現在はコロナの影響で満足にガイドができない状況になっていますので、新しく入った方が先輩のガイドに付いて学ぶということもできず、登録はしているけど案内をしたことがないという方もいる状況になっています。

斑鳩の里 観光ボランティアの会 岡村 真門さん

―減少の原因は。

1期、2期の募集では100人程度の応募がありました。それから実際にガイドになった方でも約20年経ちますので、やはり高齢を理由に辞められています。またガイドはずっと立ちっぱなしで何時間も案内しますので、体力的にもしんどいものがあります。当時の定年は60歳でしたから、その後ガイドを始められても体力に余裕がありませんでしたが、今の65歳以上になりますと、体力的にも厳しいものがあるのかなと思います。

―岡村さんは1回でどのくらいの時間を案内しているのですか。

以前は毎週2日の午前、午後1組ずつ案内していました。今は毎週3回にして午前のみ案内をしています。だいたい1回で2時間程度です。今までで長い時では8時間案内したこともありま。法隆寺は非常に歴史がありますから、本格的に説明したら3日はかかります。

―法隆寺以外で、おすすめの場所はどこになりますか。

やはり斑鳩

三塔として法起寺と法輪寺ですね。時間があるときは、法隆寺も含めそこを巡り案内します。法輪寺の仏像は飛鳥時代に作られたもので、これは県内に3つしかありません。

あと、聖徳太子の通路として使われていた「筋違道」などになります。こちらも南北に道が作られている奈良では珍しく斜め伸びた道になっています。

―ガイドの際に心掛けていることは。

私の場合になりますが、一方的に長時間話していても見ることに集中したい方もいますし、人によっては途中から嫌になってくる方もいます。ですので、相手の話を聞きながらも興味のありそうなところを話すようにしています。また、リピーターを増やすことが町のために、もともと考えていますので、「また次来たい」と興味をもってもらえるようにしています。あと町内の方が法隆寺に来ることは不思議と少ないんです。そのため、町内の小学校では6年生で歴史の勉強をするんですが、そこで実際に法隆寺を体験し



1月10日に案内した3000組目のご家族との記念写真

てもらおうと町内の3つ小学校の6年生約300人を入案内する企画も実施しました。

―最後に、ガイドを続けられてきて感じていらっしゃることは何ですか。

例えば東大寺でも、京都の清水寺にしても参道にはお土産店さんや食べる所などが並んでいます。しかし、法隆寺でも南大門の周辺にはありますが、一画だけになっています。町で買い物をしてもらうと地元も潤いますし、観光客の方にも喜んでいただけるような場所を作るために、もっと官民一体で、そこに私たちガイドも乗っかり、ここではこんなことをやります、あそこではこんなものがありますと言えらるようになってほしいです。



感動のそばに、いつも。